

未来の小松

大小松の夢実現に動いた昭和十年
(一九三五)前後、「能美郡郷土讀本」と



安宅小学校 西澤舞「きれいな安宅と小松」

いう子供が使う副読本があった。同書は、郷土への誇りや慈しみを育むために、郷土の産業や古典文学などを紹介し、未来を担う子供たちに大きな期待を寄せていた。

平成二十二年(二〇

一〇)六月、市制七〇

周年記念行事の一つ

「利常公入城三七〇年まちづくり子ども未来物語」が開催された。講演や映画、子供未来物語の演劇に加え、会場の一角に、子供たちが描いた未来の小松や作文が掲示されていた。

空港と海と観光名所が一体となった美しい安宅周辺の未来、木場潟の浄化



日末小学校 成田俊亮「小松タワー」

と水資源を利用した観光と憩いの広場、小松のシンボル、小松タワーには、白山の見える展望台とその階下に大きな体育館が描かれている。人間や動物が心地よく共存できる環境、花いっぱい、の学校、宇宙へ伸びるエレベーター、木場潟に遊ぶトキの姿等、絵は自由奔

放^{ほう}で^{くつ}屈託がない。

作文では、町中の賑^{にぎ}わいや活気のある商店街、海と山があるのは小松の長

笑顔であふれる未来の小松

月津小学校 六年 大谷 舞優

私は、今の小松はすごいと思っ、ています。小松空港や小松駅、勤進帳や大倉岳高原などいろいろな観光スポットや伝統の物があり、すごく乗^{のり}ゆると思っ、ています。だけと、そのよさを世界中のた^くさんの人に知っ、てもらっ、て小松で喜んでもらえたらも、といいと思っ、ます。(金沢や能登などはすごく印象的^{てき}でた^くさんの人が楽しんでいてると思っ、ています。)

(中略)

いと困^こんみます。かも、そのために小松のた^くさんの人に協^きわかし、てもらい温^ぬい気持ちで観光客のみなさんをサポートしてあげ、楽しんでもらえればいいと思っ、ています。そして小松市がも、と有名になればいいと思っ、ています。私がも、とも言^いいたか、たことは、小松市のみんなが協^きわかし、温^ぬかい気持ちで小松に来て人^たちを助け、あげ、小松の自慢^ひ気な観光場所やいろいろな行事場^ばでた^くさんの人たちに楽しんでもらっ、て笑顔であふれる小松にな^ら、たい

「笑顔であふれる未来の小松」月津小学校6年 大谷舞優

所、木場潟に、レジャーランドがあるとうれしい、人がいっぱい粟津温泉、昔と今と未来が一緒^{いっしょ}になつて町、人のやさしさが溢^{あふ}れ、自然環境が大切にされる町づくり等未来への素朴な願いが思い思いに綴^{つづ}られていた。

子供たちの絵や作文への願いは、市勢の発展を願う市民それぞれの思いに共通している。

現在、小松空港は、機能整備が進み、日本各地はもとより、海外への直行便が拡充され国際空港としての一翼も担う。鉄路の高架化や駅東西の区画整理事業は既に完成し、駅周辺はすっきりとした新たな装^まいを見せている。金沢開業が間近い北陸新幹線は、更に西へと延びて本市を通過する日もそう遠くはない。市街地を中心とした市域に広がる町とのアクセスは、幹線道路が縦横に走り、更に整備が進められている。しかし、中山間地域の人口減少、里山の自然や住環境の保全、市街地の空洞化や基幹産業の再編等、市勢への影響等課題も多い。

市制発足当時の小松市歌が示す本市の姿、「生産」と「観光」と「文化の華」は、今も市民の指標である。

時代の流れを柔軟に受け止め、苦境を越えて福を成す市民性は、先人の歴史が示している。「温故知新」の心を忘れず、市民の英知と英気を集め「元気な町づくり・人づくり」に励む「笑顔であふれる」小松の未来を想像する。

(竹下一郎)



木場潟に映える暁光 悠久の歴史を刻む霊峰白山。未来永劫、白山の恩恵を心に、明日の小松を展望する。